

備前市事務事業評価シート

事業の概要			根拠法令・例規等	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
事業開始年度	02	自己現実政策「生涯学習、歴史、文化」	問	担当課(室)
総合計画	大項目	基本構想	合	職・氏名
	中項目	基本計画	先	電話
小項目	02	自分を磨ける・自分を褒められるまち		係長 小橋由香利
	09	人権問題の解決		0869-64-1823
事務事業名	03	人権啓発事業		このシート作成に要した時間 4.0 時間

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	市民、各種団体(人権運動団体、商工会議所、JA、自治会連絡協議会、人権擁護委員協議会、岡山県都市人権推進事業連絡協議会、民生委員、児童委員、老人クラブ連合会、愛育委員、連合PTA等)、市内企業
目的(何のために)	人権について正しい認識と知識を深め、人権問題を一人ひとりが自分の問題として受け止め、日常生活の中でお互いを尊敬し合える社会づくりができるよう、人権意識の高揚を図る。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民に対し人権尊重意識の普及を図り、人権を尊重することの重要性を正しく認識してもらうことにより、人権が尊重されるまちづくりを推進する。

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
人権啓発地域活動事業	人権問題に対する認識を広めるための啓発・広報活動の実施。岡山県人権啓発ネットワーク協議会の指定による、伊部小学校への人権の花運動(花の種等の贈呈)、人権スポーツふれあい教室の実施(スポーツ選手等の交流)。備前市人権擁護委員と協力して、人権週間及びびげん焼きまつり等で街頭啓発活動。人権週間にちなんで広報誌12月号へ啓発記事の掲載。	◎
人権教育・啓発研修会開催事業	人権問題について、身近な視点に立った講演会の開催。教育委員会の人権教育セミナーと同時間催し、「部落問題と向き合う私たち」と題し石井真澄・石井千晶夫婦を講師迎え、講演会を実施。	◎
啓発標語募集事業	一般市民、小中高等学校及び支援学校の児童・生徒へ人権啓発標語を募集し優秀作品をポスターにして、市内の公共機関等へ掲示し市民の人権意識の高揚を図る。	◎
小集会所・共同作業場管理事業	地元住民の福祉及び文化向上のため設置された小集会所等について、指定管理により地元自治会での効果的な利用を図る。	○
犯罪被害者等支援事業	犯罪被害者等の人権擁護に資する啓発活動の推進。	○
都市人権推進事業連絡協議会	県内15市で構成され、各市単独で困難な人権啓発事業を継続的に実施し、効果的な人権啓発の推進を図ることを目的とする協議会。	▲
都市人権推進協議会活動負担金	マスメディアを通じての人権啓発事業として、県内15市で構成されている都市人権推進事業連絡協議会が実施する、人権啓発ラジオ番組の放送(「夕焼けの向こう」4月から1年間毎週土曜日17:55~18:00 山陽放送ラジオ)、人権啓発映画のテレビ放映(8月 民間テレビ5社で一本ずつ放映)に対する負担金。	○
人権擁護委員協議会助成金	人権の花運動、人権スポーツふれあい教室、なやみごと相談所の開設、街頭啓発活動等を実施している備前市人権擁護委員協議会に対する活動助成金。	▲
研修会等参加負担金	人権に関する各種研修会への参加負担金。	○

事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
事業費	直接事業費	千円	1,859	1,427	1,347
	必要人員費	千円	0.63人	4,944	0.45人
決算額	事業費計	千円	6,803	5,275	4,993
	国県支出金	千円	625	169	178
	受益者負担				
	財源				
	市債				
	その他( )				
	一般財源		6,178	5,106	4,815
	受益者負担比率	%	-	-	-

結果指標名		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
結果指標	人権教育・啓発研修会参加者数	説明	人権教育・啓発研修会参加者数		
	結果指標量	人	119	97	96
	対前年比	%	-	81.5%	99.0%
	活動コスト	円	580,533	342,610	501,000
	単位当たりコスト	円	4,878	3,532	5,219

事業の成果 (平成25年度事業)					
成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度目標値
参加者が今後の参考となると答えた割合	目標値 (A)	100	100	100	100
	実績値 (B)	83.3	95.2	89.7	到達目標値
	達成率 (B/A)	83.30%	95.20%	89.70%	100
成果指標設定の考え方・式や説明					
人権が尊重されるまちづくりを推進するため、人権教育・啓発研修会参加者に対し、アンケート調査を実施し講演会の内容から、今後の参考となると答えた割合を設定した。					

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 A
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 C
有効性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	有効性評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 C
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 C
市民参画度	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	有効性評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 C	

進行年度 (H26年度) の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明	人権教育・啓発研修会において、多くの市民に参加を呼び掛け、人権を尊重することの重要性を正しく認識してもらい、人権が尊重されるまちづくりを推進する。また、本年度も教育委員会を連携を取りながらコスト削減に努める。						

総合評価	
人権について正しい認識と知識を深めるため、粘り強く事業を実施していく必要がある。人権教育・啓発研修会参加者に対しては、講演会の内容が今後の参考となると答えた割合を高めるような講師の選定が必要である。	総合評価 A B C D E 高や中や低 やや高や低 やや低 高 低 高 低 B

平成27年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
取組目標	研修会等へ多数の参加を促すよう、効果的な広報、講師等の内容の充実に努め、すべての人々が多様な価値観を認め合い、お互いの人権を尊重できるよう、家庭や職場、地域での意識改革につなげる。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標に留意しな